



令和5年 11月 2日

国分寺市長 殿

団体の所在地 国分寺市泉町 3-33-16 西国分寺ハイツ 101

団 体 名 NPO法人ワーカーズ風ぐるま

代表者氏名 杉浦真子

次のとおり提案します。なお、会員名簿・担当者連絡先を除き公開を承諾します。

1 提案事業名	集団が苦手な子どもたちと保護者や家族のための支援事業 (適合する、市の施策または事務事業：発達相談の支援・連携強化)
2 事業実施期間	令和6年4月1日 から 令和7年3月31日まで
3 提案事業予算	602,000 円
4 提案事業概要 (事業目的、内容等を 400字以内でご記入 ください。この欄の 記載内容は、ホーム ページ等で公表し ます。)	<p>「発達障害」という言葉に振り回されてどこに相談していいのかわからず孤立している子どもと保護者や家族の伴走者となり、相談につなげる。学校や園で集団になじめないなどの悩みを抱える子どもの多くは、発達障害と見分けがつかない症状を示しているが、子どもが個々に自由に好きなことができる空間をつくり、障害のあるなしに関わらず、その子のできることを受け入れる機会をつくる必要がある。保護者や家族も気兼ねなく雑談ができて、子育ての不安感を和らげることができる居場所を作り、子育てしやすいまちづくりをめざす。</p> <p>子どもとの関わり方を考えたり、先輩保護者の体験談を聞いたり、地域の社会資源を知ることができる講座を開き、保護者が子育ての不安や悩みを解消することで、子どもが成人するまで安心して暮らせる環境をつくる。</p> <p>地域で子ども達の特性を受け入れて見守ることができる人材を増やす。相談員との連携を図り、市民の生活改善につなげる。</p>
5 添付書類	<div><input type="checkbox"/>企画書(2号様式)</div> <div><input type="checkbox"/>収支予算書(3号様式)</div> <div><input type="checkbox"/>団体概要書(4号様式)</div> <div><input type="checkbox"/>定款又は規約</div> <div><input type="checkbox"/>会員名簿</div> <div><input type="checkbox"/>予算・決算関係書類</div> <div><input type="checkbox"/>法人市民税納税証明書</div> <div><input type="checkbox"/>その他()</div>

1 提案事業名	集団が苦手な子どもたちと保護者や家族のための支援事業
2 事業の目的 (解決すべき社会問題・地域課題、事業の意義や必要性について)	<p>風ぐるまの子育て支援を利用する子育て中の保護者から、0歳～3歳までの親子が利用できる親子ひろばが、子どもが自由に遊べて、子育ての相談もできる居場所になっているが、4歳以上になると児童館などの子どもの居場所を利用することが多くなるが、公共施設の中では集団が苦手な子どもが自由に過ごせる場所が少ない、という声がある。集団が苦手な子どもにとってはひとりで静かに過ごせる環境が必要である。市が発行している「子どもの居場所づくりハンドブック」には、子どもの居場所として求められる機能の中の静かにすごせる居場所として、公共施設では図書館、その他の施設では祖父母の家と記載されているが、図書館や祖父母の家以外に利用できる居場所が必要である。また、3歳児健診で、発達に問題があると指摘されると不安になりどこかに相談したいがどうすればいいか迷ってしまう、という保護者からの相談がある。市の総合ビジョンでは、子どもに関する相談場所の認知度は令和元年で90.2%あるが、自分が子育てで困ったり悩んだりして実際に相談しようと思っても自分の事例が相談するほどのことでもないような気がして二の足を踏んでいたり、相談ができたとしてもその後の専門家や子育て支援事業や、療育施設とのつながりがもてなかったり、うまくつながったとしても親や家族が自分の子どもの状況を受け入れられないために、それぞれの関係機関の連携がうまくいかず、子どもの年齢が進むにつれて支援の継続性がないため、悩みや困った感が解消されないままになってしまうことがある。市の施策として、乳幼児健診や発達相談、学童期には教育相談などがあるが、それぞれの担当窓口が違うことで継続的な支援が難しい現状をなくすためには、18歳までの一貫した支援の継続が必要である。このような状況の中、まずは子どもがひとりで静かに過ごせる環境があり、保護者が日頃から気軽に雑談ができ、子どもたちも障がいのあるなしに関わらず自由に過ごせる居場所の必要性を感じている。そして居場所では出会う地域の人たちが子どもたちの特性を知って、保護者や家族が育てにくさを地域の人たちに受け入れてもらっていると感じれば相談しやすくなり、子育てしやすい環境づくりができる。</p> <p>市民にとって、相談事業が、誰もが必要な時に必要な支援を受けられる体制になるために、相談員が身近な存在になり、地域の現状の情報共有をほかり、市民のニーズに応える機会が増えることが望ましい。</p>
3 事業の内容 (事業の目的を達成するために何をするか)	<p>保育園や幼稚園、学校や学童など、大人数の場になじめない、集団が苦手な子どもたちが個々に自由にすきなことができる居場所を提供する。なるべく一人になる空間を確保し、子ども自身がやりたいことを決めて、自分でスケジュールを決めて過ごすことができる、子どもによる子どものための空間をつくる。子どもにとって、その子の特性を理解している地域の人が見守る中で、地域のなかでいろいろな人に出会うことで家族以外のつながりをつくることができ成長していくことができる。</p> <p>相談をするか迷っていたり、相談してもその後の関わりに悩んでいたたりする保護者や家族にむけては、子育て経験のある先輩保護者や、既存の施設などで子育て支援事業をしている人たちの話を聞いて、自分の子どもとの</p>

	<p>向き合い方を知ること、4歳～18歳までの継続的な子育ての未来図を描くことができるような講座を開き、子育てに対する不安感を和らげる機会をつくる。講座の参加者は、この講座をきっかけとして、子育てに協力したいと考えている地域のいろいろな人とつながり、自分の子育ての不安や困りごとを抱え込まないようにする。</p> <p>地域の人も子育ての伴走者として関わり続けることができる体制をつくり、相談事業への橋渡しやその後の支援へのつながりを見守る。</p>
<p>4 事業計画 (事業の実施スケジュール)</p>	<p>1, 子どもの居場所 6月から毎月土曜2回×10ヶ月＝20回、10時～16時にわには(東元町の居場所) レンタルルームで実施 事前予約制 利用している時間に何をするかは子ども自身が決めて過ごす。 必要な道具などは各自で用意して持ってきてもらう。 子どもの数に応じてボランティアを起用。</p> <p>2, 「ゆるいく講座」の実施 参加者は主に保護者と家族 ・自己紹介と困っていることなどのフリートーク ・子どもの発達、発達障害について ・子どもへの接し方、発達障害を疑う前にやること、生活の見直しなど ・相談事業、つくしんぼや支援団体の情報提供 ・今後にむけてのフリートーク 5回とも土曜午前中2時間、その間の子どもは居場所で過ごす。 毎回、市の相談員にも参加してもらう。</p> <p>4月～5月 話をしてくれる先輩保護者(ペアレントメンター)や支援者・相談員の選定 講座の日程決め</p> <p>6月 広報(チラシ作成、市報やホームページ等掲載)</p> <p>7月～11月 講座実施 年度末に活動の振り返りとまとめを報告書として作成する。</p>
<p>5 目標値 (事業期間で達成する目標)</p>	<p>子どもの居場所利用者 5名×20回＝延べ100名 ゆるいく講座の参加者 10名×5回＝50名 発達相談事業の令和6年度の目標値 220件</p>
<p>6 事業の対象 (地域、具体的対象者、対象総人数等)</p>	<p>市内全域の、学校や園で集団行動ができない4歳～18歳の子ども 4歳～18歳の子どもの発達に不安を感じている保護者や家族 市の発達相談や教育相談で相談中の保護者や家族</p>

7 事業の実施場所	子どもの居場所・・・東元町の居場所「にわには」 ゆるいく講座・・・市内の公共施設
8 役割分担 (具体的に)	<p><提案団体が担う役割> 子どもの居場所の確保、見まもりスタッフの確保 講座の企画と実施、話し手の選定、参加者募集 相談員との情報交換</p>
	<p><市が担う役割> 広報（市報やホームページなど） 講座の会場の確保 担当職員、相談員の講座参加と居場所見学</p>
9 目標が達成された状態	<p>集団が苦手な子どもが自分の得意なことをみつけ、生き生きと生活できるようになること。保護者や家族が、地域の人がその子の特性を理解し見守ってくれることで、自分の生きづらさを受け入れてくれている伴走者がいるという安心感ができ、気軽に相談ができ、社会で子どもを育てる、ということがあたりまえになること。</p> <p>子どもたちに自己肯定感があり、まわりの大人とも関わりを持つことで、思春期になっても、不登校やひきこもりなどの生きづらさを感じるものが少なくなっていくこと。</p> <p>年齢や障害のあるなしに関わらず、いろいろな人がいることができる公的な常設の居場所が増えること。</p>
10 市と協働する意義及び必要性、協働による相乗効果	<p>当事者の声なき声をすくい上げるために、団体の口コミだけでは広報力がないため、市と協働することにより、市報やホームページ等で広報することで、団体だけでは周知できない市民への情報伝達ができる。</p> <p>公的な常設の居場所や相談できる場が、現在の親子ひろばのように、各小学校区にひとつ以上できるくらい増えていくことで、自己負担なく多くの市民が公平に利用できる。</p> <p>子どもの発達についての情報や発達障害への理解がひろがり、子育てに不安を感じている子育て世代の保護者や家族に子育てしやすい地域という認識が生まれ、少子化対策の一助を担えるかもしれない。</p> <p>市の職員や相談員を身近に感じる機会が増えれば、相談事業に対しての市民の理解がひろがり、相談窓口が利用しやすくなり、相談後の関係機関との連携の強化が期待できる。</p>

<p>11 事業実施後の展開（成果の活用方法又は、提案団体の自主的な活動展開等）</p>	<p>継続的に常設の子どもの居場所と保護者や家族が気軽に雑談できる場所の運営ができるようにする。当事者に伴走して継続的に見守る人材を増やす。当事者がピアサポートとして運営に関わってくれるようになる。相談員が身近な存在になり、市民が誰でも利用や相談がしやすくなる相談窓口になり、必要な時に必要な支援が受けられる体制が広がる。教育の分野でのインクルーシブ教育の推進と並行して福祉の分野でも地域でのインクルーシブな居場所を増やす。発達障害だけではない目に見えない障害（知的障害・高次脳機能障害）についても、市民にむけて、障害のことをよく知らないためにおこる誤解による差別や偏見をなくし、理解推進のための講座の実施や、当事者たちの居住支援や就労支援へつなげる。</p>
--	--

令和5年度募集 提案型協働事業 収支予算書

(収入の部)

大項目	中項目	内訳	中項目計	大項目計
委託費		802,000円	802,000円	802,000円
			円	円
			円	円
合 計				602,000円

(支出の部)

大項目	中項目	内訳	中項目計	大項目計
人件費	居場所 講座	居場所当番 講座企画 講座実施	313,600円 26,400円 26,400円	411,200円
	市との定期協議		44,800円	
経費費			円	円
印刷製本費		印刷用紙(A4) プリンターインク	2,200円 5,500円	7,700円
消耗品費		文房具 消毒用アルコール	5,500円 3,300円	8,800円
通信運搬費			円	円
旅費交通費			円	円
保険料			円	円
物品借上げ料			円	円
賃借料	居場所	会場利用料	120,000円	120,000円
			円	円
直接経費計				547,700円
間接経費		直接経費 547,700円×10%=54,770円以下の54,300円を計上		54,300円
合 計			(消費税含む)	602,000円

団 体 概 要 書

団体の名称	(フリガナ)エヌピーオーハウジンワーカーズカザグルマ		
	NPO 法人ワーカーズ風ぐるま		
所在地	〒 185 - 0024 国分寺市泉町 3-33-16-101		
設立年月日	2004 年 4 月		
会員の状況	正会員数 27 人・ 0 団体 (内国分寺市民 27 人)	年会費	3,000 円
	賛助会員数 0 人 0 団体	年会費	1 口 1,000 円
活動目的	市民によるたすけあいの理念に基づき、子どもからお年寄りまで生活の支援を必要とする市民に対して、保育・家事・介助・介護等の支援等の活動を行い、地域福祉の増進と、誰もが主体的に生活できるまちづくりに寄与する。ひとりひとりの生活技術や技能を提供しながら、自らの生活を自分で決めていく自立の精神を大切にして、障害のあるなしの区別なく関わりあって暮らせるまちづくりに貢献する。		
活動内容・活動実績 (既に協働による委託事業等の実績がある場合には、委託事業名、委託契約先名、委託時期を記入して下さい。)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立援助サービス「ACT つながるケア」(独自事業) 平成 16 年 5 月～ ・ 西恋ヶ窪親子ひろば事業(国分寺市協働) 平成 19 年 7 月～平成 24 年 3 月 ・ 障害児、年齢枠を超えた子育て支援事業(国分寺市協働) 平成 21 年 4 月～24 年 3 月 ・ 育児支援家庭訪問事業(国分寺市) 平成 23 年 11 月～ ・ ひとり親家庭ホームヘルプサービス事業、平成 23 年 11 月～ ・ だれでもサロン「ひだまり」(独自事業) 平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月 ・ 障害者等日中一時支援事業(国分寺市) 平成 24 年 4 月～ ・ 子育て広場ぶらんこ国分寺(生活クラブ生協) 平成 29 年 12 月～ ・ 訪問介護事業(東京都) 平成 30 年 5 月～ ・ 障害者等移動支援事業(国分寺市) 令和 3 年 4 月～ 		
ホームページ	https://kazaguruma9696.jimdofree.com		

担当者連絡先	
--------	--

特定非営利活動法人ワーカーズ風ぐるま 定款

第1章 総 則

第1条（名称）

この法人は、特定非営利活動法人ワーカーズ風ぐるまという。

第2条（事務所）

この法人は、主たる事務所を東京都国分寺市に置く。

第3条（目的）

この法人は、市民によるたすけあいの理念に基づき、子どもからお年寄りまで生活の支援を必要とする市民に対して、保育・家事・介助・介護等の支援等の活動を行い、地域福祉の増進と、誰もが主体的に生活できるまちづくりに寄与することを目的とする。

第4条（特定非営利活動の種類）

- (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) 子どもの健全育成を図る活動
- (3) まちづくりの推進を図る活動
- (4) 社会教育の推進を図る活動
- (5) 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
- (6) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

第5条（事業の種類）

この法人は、第3条の目的を達成するため、特定非営利活動に係る次の事業を行う。

- (1) 家事及び育児等、自立援助に係る事業
- (2) 一時預り、親子ひろば等、子育て支援に係る事業
- (3) 非常時の経済支援に係る事業
- (4) 障害者等日中時間預り事業
- (5) 地域福祉に係る人材養成を図る事業
- (6) 異世代交流事業
- (7) 介護保険法に基づく訪問介護事業
- (8) 介護保険法に基づく第1号訪問事業
- (9) 介護保険法に基づく居宅サービス事業
- (10) 介護保険法に基づく介護予防サービス事業
- (11) 介護保険法に基づく居宅介護支援事業

第2章 会 員

第6条（種別）

この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体

第14条（職務）

理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

- 2 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるとき又は理事長が欠けたときは、理事長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。
- 3 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び総会又は理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
- 4 監事は、次に掲げる職務を行う。
 - (1) 理事の業務執行の状況を監査すること。
 - (2) この法人の財産の状況を監査すること。
 - (3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。
 - (4) 前号の報告をするための必要がある場合には、総会を招集すること。
 - (5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べること。

第15条（任期等）

役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠のため、又は増員により就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。
- 3 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

第16条（欠員補充）

理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

第17条（解任）

役員が次の各号の一に該当する場合には、総会の議決により、これを解任することができる。

- (1) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められるとき。
- (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。
- 2 前項の規定により役員を解任しようとする場合は、議決の前に当該役員に弁明の機会を与えなければならない。

第18条（報酬等）

役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

- 2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。
- 3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

第4章 会 議

第19条（種別）

この法人の会議は、総会及び理事会の2種類とする。

- 2 総会は、通常総会及び臨時総会とする。

第20条（総会の構成）

総会は、正会員をもって構成する。

- (2) 正会員総数及び出席者数(書面もしくは電磁的方法による表決者又は表決委任者がある場合にあつては、その数を付記すること。)
 - (3) 審議事項
 - (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
 - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及び総会において選任された議事録署名人2人が、記名押印又は署名しなければならない。

第29条 (理事会の構成)

理事会は、理事をもって構成する。

第30条 (理事会の権能)

理事会は、この定款に定める事項のほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

第31条 (理事会の開催)

理事会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の2分の1以上から理事会の目的である事項を記載した書面により招集の請求があつたとき。

第32条 (理事会の招集)

理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長は、前条第2号の規定による請求があつたときは、その日から14日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法により、開催日の少なくとも5日前までに通知しなければならない。

第33条 (理事会の議長)

理事会の議長は、理事長がこれにあたる。

第34条 (理事会の議決)

理事会における議決事項は、第32条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

- 2 理事会の議事は、理事の総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第35条 (理事会での表決権等)

各理事の表決権は、平等なものとする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法をもって表決することができる。
- 3 前項の規定により表決した理事は、前条及び次条第1項の適用については、理事会に出席したものとみなす。
- 4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることはできない。

第36条 (理事会の議事録)

理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
- (2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名(書面表決者にあつては、その旨を付記すること。)

予算成立後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て、既定予算の追加又は変更をすることができる。

第46条（事業報告及び決算）

この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

第47条（臨機の措置）

予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事会の議決を経なければならない。

第7章 定款の変更、解散及び合併

第48条（定款の変更）

この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の多数による議決を経、かつ、法第25条第3項に規定する事項については、所轄庁の認証を得なければならない。

2 この法人の定款を変更(前項の規定により所轄庁の認証を得なければならない事項を除く。)したときは、所轄庁に届け出なければならない。

第49条（解散）

この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠亡
- (4) 合併
- (5) 破産手続き開始の決定
- (6) 所轄庁による設立の認証の取り消し

2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の議決を経なければならない。

3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

第50条（残余財産の帰属）

この法人が、解散(合併又は破産手続き開始の決定による解散を除く。)したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうち、総会において議決した者に譲渡するものとする。

第51条（合併）

この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第8章 公告の方法

第52条（公告の方法）

この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、法第28条の2

附則

この定款は、平成 30 年 5 月 15 日から施行する。

2022年度事業会計収支報告書 I

2022年4月1日から2023年3月31日

NPO法人 ワーカーズ風ぐるま
(単位: 円)

I 収入の部	決 算		特記事項
1 会費・助成金収入		74,286	
年会費	66,000		3,000 × 22名
寄付	8,286		
助成金			
会費入会金計		74,286	
2 事業収入		19,414,247	
ACT自立支援	1,581,459		
非常時支援	112,308		ACT共済受取手数料
行政委託ひとり親支援	604,890		
行政委託産前産後支援	428,055		
障がい者日中預かり	953,800		
訪問介護事業	6,445,767		訪問介護事業
	4,386,706		総合事業
	1,775,461		処遇改善加算、特定処遇改善加算、ペーシアップ加算、補正
親子広場ぶらんこ	3,125,801		
事業収入計		19,414,247	
受取手数料	35		銀行利息
雑収入	487,845		コロナ関係補助金、東京都物価高騰対応支援金
		487,880	
当期収入合計(A)		19,976,413	
前期繰越収支差額		5,499,618	
収入合計(B)		25,476,031	

2022年度事業会計収支報告書 II

2022年4月1日から2023年3月31日

NPO法人 ワーカーズ風ぐるま

(単位: 円)

II 支出の部	決	算	特記事項
1 事業費			
ACT自立支援	587,358		673.5h
行政委託ひとり親支援	290,624		241.5h
行政委託産前産後支援	181,871		162.5h
障がい者日中預かり	635,652		510.0h
親子広場ぶらんこ	3,125,801		生活クラブより受託費
訪問介護事業	6,977,571		訪問介護 1885.5h、総合事業 1288.5h
処遇改善加算・特定処遇改善加算	1,432,220		介護職員処遇改善加算・特定処遇改善加算一時金
事業費計		13,231,097	
2 管理費			
役員報酬	480,000		
事務手当	1,490,980		事務費、会議出席費
支払報酬	90,090		丹野税理士 税務報酬
交通費	586		通勤費他
家賃	1,188,000		@99,000×12ヶ月
水道・光熱費	133,535		電気料金、水道料金、ガス料金
通信費	218,330		電話・インターネット・切手代
事務・消耗品費	241,695		プリンタインク、用紙他
包括保険料	0		包括保険料(今年度分は前期3月に支払)
サポート事業費	32,059		ACTとの提携費用
諸会費	10,000		チアーズ賛助会員、地域協議会年会費他
支払手数料	39,810		振込手数料、ほむさぽ基本料金他
租税公課	12,610		収入印紙代
法定福利費	515,211		健康保険料、厚生年金、労働保険料
福利厚生費	196,286		インフルエンザ予防接種補助金、会議茶菓子代、自転車用ヘルメット代
広告宣伝費	16,200		風ぐるま便り制作費
新聞図書費	18,080		介護雑誌年間購読料他
雑費	16,010		家賃保証料、送料他
消耗品	221,066		ノートパソコン、オフィスソフト他、衛生用品他
リース料	129,360		福祉ソフト
慶弔費	5,000		弔電代
保険料	0		事務所火災保険(2年分)
研修費	3,000		
管理費計		5,057,908	
3 法人税等		75,900	
	75,900		
4 正味財産減少の部		0	
前期損益修正損			
当期支出合計(C)		18,364,905	
当期収支差額(A)-(C)		1,611,508	
差引繰越金(B)-(C)		7,111,126	

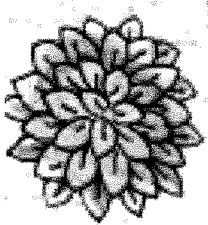
第4号議案

2023年度事業会計予算書 I

2023年度予算		2022年度実績	
I 収入の部	特記事項		特記事項
1 会費・助成金収入			
年会費	75,000	66,000	3,000 × 22名
寄付	0	8,286	メンバーより
助成金	0		
持続加給付金	0		
会費入会金計	75,000	74,286	
2 事業収入		16,288,446	
ACT自立支援	1,694,000	1,581,459	673.5h
非常時支援	10,000	112,308	ACT共済取次手数料
行政委託ひとり親支援	593,900	604,890	241.5h
行政委託産前産後支援	425,000	428,055	162.5h
障がい者日中預かり	900,000	953,800	510.0h
訪問介護事業	9,920,000	6,445,767	訪問介護 1885.5h
処遇改善加算・特定処遇改善加算	1,800,000	4,386,706	総合事業 1288.5h
事業収入計	15,342,900	1,775,461	処遇改善加算、特定処遇改善加算、ベースアップ加算、補助金
受取手数料	30	35	銀行利息
雑収入	10,000	211,935	コロナ関係補助金、東京都介護士研修補助金
当期収入合計(A)	15,427,930	211,970	
前期繰越収支差額	7,111,126	5,298,532	
収入合計(B)	22,539,056	21,873,234	

2023年度事業会計予算書 II

	2023年度 予算		2022年度 実績	
II 支出の部				特記事項
1 事業費				
ACT自立支援	896,000	@1,225×700h	587,358	673.5h
行政委託ひとり親支援	325,000	@1,300×250h	290,624	241.5h
行政委託産前産後支援	201,600	@1,300×170h	181,871	162.5h
障がい者日中預かり	336,000	@1,200×500h	635,652	510.0h
訪問介護事業	2,750,000	@1375×2000h	6,977,571	訪問介護 1885.5h、総合事業 1288.5h
訪問介護常勤	7,992,000	32時間常勤(サ責・管理者手当含む)242000× 12ヶ月16時間常勤(サ責手当含む)212000× ※処遇改善加算等を含む	1,432,220	処遇改善加算・特定処遇改善加算一時金
事業費計	12,500,600		10,105,296	
2 管理費				
役員報酬	480,000	@40,000×12ヶ月	480,000	役員報酬
事務手当・雑給	1,824,960	事務手当@1,072×1680h、会議@1000×2×12	1,490,980	事務費、会議出席費
支払報酬			90,090	丹野税理士 税務報酬
交通費	1,000	研修・通勤交通費他	586	研修・通勤費他
家賃	1,188,000	家賃99,000×12	1,188,000	@99,000×12ヶ月
水道・光熱費	130,000	ガス@2,000、電気@3,700、水道@1,600×12	133,535	電気料金、水道料金
通信費	220,000	jcom、風ぐるま便り、年賀はがき、切手	218,330	電話・インターネット・切手代
事務消耗品費	220,000	プリンタインク代40000、介護記録表、印刷代、その他	241,685	プリンタインク他
包括保険料	71,000	前年度事業高に係る 保険料	0	
サポート事業費	30,000	前年度事業高に係る ACTとの提携費用	32,059	ACTとの提携費用
諸会費	10,000	チアーズ、地域協議会会費	10,000	チアーズ賛助会員、地域協議会年会費他
支払い手数料	100,000	税務代理報酬、振込手数料	39,810	振込手数料、ほむさぽ基本利用料
租税公課	1,000	収入印紙代	12,610	収入印紙代、報酬源泉所得税
法定福利費	510,000	健康保険料、厚生年金、労働保険料	515,211	健康保険料、厚生年金、労働保険料
福利厚生費	30,000	インフルエンザ予防接種補助金、会議茶菓子代	196,286	インフルエンザ予防接種補助金、会議茶菓子代 自転車用ヘルメット代
交際費	1,000	謝礼等	0	監査謝礼1名分、他謝礼金
新聞図書費	0		18,080	介護雑誌年間購読料、ACT冊子
雑費	20,000	家賃保証料他	16,010	家賃保証料、送料他
消耗品	100,000	トイレトペーパー他	221,066	FAXプリンター、衛生用品他
リース料	129,360	福祉ソフト@10780×12	129,360	福祉ソフト
慶弔費	5,000		5,000	メンバー親族香典代
保険料			0	事務所火災保険料
研修費			3,000	
広告宣伝費			16,200	風ぐるま便り製作費
管理費計	5,071,320		5,057,908	
3 予備費	0		0	
予備費	0			
当期支出合計(C)	17,571,920		15,163,204	
当期収支差額(A)-(C)	-2,143,990		1,411,498	
差引繰越金(B)-(C)	4,967,136		6,710,030	



はじめまして！にねにょです！

国分寺市東元町1丁目に公園のように自由に過ごせる「みんなの家」がオープン

おうち



自転車など
道路に置かないでね
敷地内にどうぞそ～
駐車場は
ありません

アトリエルーム
みんなのリビング

寺子屋
きて～

庭
にわにはのシンボル

キッチン
作って食べよう！

レンタルスペース
夢をかなえよう！

本卒の部屋
太宰ファン必見！



玄関



住所：国分寺市東元町1-31-13
電話番号：090-4163-5932
メール：niwaniha.m@gmail.com
ホームページ：sites.google.com/view/niwaniha

主催：にわのいえ・もとまち
協力：(社福)国分寺市社会福祉協議会、国分寺地域包括支援センターもとまち
三鷹市スポーツと文化財団・太宰治文学サロン

にわには

にわにはトリセツ

- 開所日：基本は平日9～17時（変更もあるため最新情報はホームページでご確認ください）
- 利用料：子ども無料 大人300円/日（フリードリンク付き）

アトリエルーム

大人も子どもも、自由に過ごせるお部屋です。

イベントなどの開催をご希望の方はご相談ください。レンタルボックス…手作り品などを置いて販売できます。

ボックス使用料：500円/月

寺子屋

本、紙、鉛筆、ノートなど自由に使えます。わからないことがあったら、寺子屋の仲間や係のおばちゃんに聞こう！子どもが勉強してないときは、読み聞かせや囲碁、編み物などにもご利用ください。

キッチン

お茶をいれたり、お昼ごはんを作ったり、ご自由にお使いください。子ども食堂としてのご利用も可能です。ご希望の方はご相談ください。

にわにはの庭

「にわには」のシンボルは60坪を超える広い庭です。庭も人と同じように呼吸をしています。庭に気持ちがいい風が通ると木々に草花、まわりの人も元気に。どろんこになって再生。一緒に楽しみましょう。

太宰治とにわには

「にわには」の家主である鰭崎家の前当主、画家の鰭崎潤氏は若い頃太宰と知り合い、お互いの家を行き来して文学や絵画などの議論をするなど深い交流がありました。また無教会派の信者である鰭崎氏は、太宰にキリスト教を伝道し太宰文学に影響を与えたとも言われています。この度「にわには」のオープン機に、鰭崎家に保管されていた太宰の鰭崎氏あての書簡や署名本、太宰が描いた鰭崎氏の肖像画等の写真を、鰭崎家のご厚意により展示することになりました。尚、展示にあたっては資料の寄託先である三鷹市、三鷹市スポーツと文化財団・太宰治文学サロンの全面的なご協力をいただけたことになりました。「にわには」においての際は、この貴重な資料をぜひご覧ください。

レンタルスペース

会員の方にお貸しするスペースです。教室を開いたり、在宅ワークの場所としてもご利用いただけます。

・各曜日、午前または午後の1枠5,000円/月で利用できます。

（単発利用は2,000円/1回）

・ご利用希望の方はメールでご連絡ください。

niwaniha.m@gmail.com

※○は2023/5/20現在利用可能（最新情報はホームページをご確認ください）

会員を募集しています！

「にわには」の活動に賛同してくれる仲間を募集しています。年会費は1,000円です。

「にわには」は皆さまのご寄付によって支えられています。活動へのご支援をどうぞよろしく願っています。

振込口座 多摩信用金庫 国分寺南口支店

にわのいえ・もとまち 代表 杉浦真子

（普）0339960

